

## Bulletin 132 Supersessionism and Jewish Evangelism

By Mitch, Glaser, President, Chosen People Ministries

### 置換神学とユダヤ人宣教

チョーズン・ピープル・ミニストリー代表 ミッチ・グレーザー 翻訳：駒井洋子

#### 概観：課題

本日お話しする難題について、どうか、よく注意して聞いてくださり、私に関心を持っている事柄を理解していただけるようお願いいたします。

置換神学は次の二つの理由において、ユダヤ人宣教と今日のメシアニック・ジューのキリストの弟子という身分からみて大きな関心事であります。まず第一に、世俗的背景を持つ多くのユダヤ人のキリストの弟子は、アブラハムとユダヤ人を創造された神がリアルな方であつ知ることが出来るということが分かり、自分たちのユダヤ人としてのアイデンティティーを再構築するため、第二番目に彼らが友人や家族そしてコミュニティに証しをするため彼らの遺産を明らかにし知ることを必要としているという、これら二つの理由があります。彼らは、イエシュアに対する信仰によってユダヤ人としてのアイデンティティーとコミュニティを拒絶するのかという議論を常に受け流さなければならないのです。

#### 定義

置換神学を簡単な言葉で定義づけましょう。置換神学では、ユダヤ人は彼らの不従順とキリストを拒絶したことにより、もはや神の計画には何ら役割を果たさないと主張しています。ですから、**置換神学**は二つの核となる信条から成り立っています。すなわち、(1) イスラエルの国(民)は神の民としてもう終了、あるいはその権利を失い、教会から離れて、その唯一無二の役割あるいは機能を二度と持つことが無い。(2) 今や、教会が真のイスラエルとなり、神の民としてのイスラエルは永久的に入れ替えられ、その地位を奪われた。置換神学は新約の教会は、神の民としてのイスラエル国(民)が永久に置き換えられた新しいあるいは真のイスラエルであるという見解を持つものです。

置換神学は次のように主張しています。イスラエルの選びは、カルバリで無効にされ、教会に移された。強力な置換神学擁立者は、通常イスラエルは神の計画に何ら関係しないとの見解を持ち、穏健派置換神学者は、ユダヤ人の救いは一つのグループとして神の聖なる計画に入れられるが、約束の地への国家的回復はないとの見解を持っています。この最後の見解は、イスラエルは神の取り消すことのできない恵みと召しの対象であるが、その役割は旧約の約束としての国家(民)的保証をするものではないとしています。イスラエルは神の民として単に教会の一部となるということだけを確約しています。

私は、LCJEのある人たちは、伝統的に置換神学者として定義付ける神学的伝統を持つところから集まっていることを知っています。このような伝統を受け継いでいるところから来てはいるが、個人的には自分の教会や教派の置換神学に共感はしていないというかもしれませんが、そこから出てきているのは確かです。

同様に、私たちは、置換神学という言葉は広い意味を持っているということも知らなければなりません。そして、他者から置換神学者と見られている人自身がすべてそのように思っ

ているとは言えません。マイケル・ヴェラーチは、「マスターズセミナリージャーナル (Masters Seminary Journal)」に、次のようなかなり長い詳細な記事を書いています。

置換神学は、新約の教会が、神の民としてのイスラエル国に永久的に取って代わる新しいあるいは真のイスラエルであるという見解を持つものである。このことは、「刑罰としての置換神学」の形をとられている。すなわち、神はキリストを拒絶したイスラエルを罰しているということである。あるいは、「実利的置換神学」の形をとっているのかもしれない。すなわち、神の民としてのイスラエルの役割をキリストの来臨によって終了し、教会に入れかえるという神の計画であった。最後の置換神学の形は、「構造的置換神学」である。すなわち、旧約聖書のことばは、完了者として、あがない者としての神の業についてのクリスチャンの確信を系統化するのに非常に不明確であるという。

このトピックについてのよい参考本は、R. Kendall Soulen の「イスラエルの神とキリスト教神学 (*The God of Israel and Christian Theology*)」があります。

### 総合的信仰的立場の一局面

強力に置換神学を信奉する者であっても、ユダヤ人に対して深い愛とユダヤ人福音宣教に対して関心を持っていることを知っています。このことは、LCJE で私たちを結び付けている大儀であります。また、置換神学は信仰における全体的な信仰の立ち位置から見て、一局面であることだと認識しています。そして、私たちのフェロシップは、神の計画におけるイスラエルやユダヤ人の役割を理解することを超えたところにある、そしてこの教理あるいは神学的観点は私にとって、だれが置換神学者であるかどうかよりはるかに重要なことなのです。

### 反ユダヤ主義の任務

私はまた、置換神学と反ユダヤ主義が残念ながら常に同一視されていることを承知しています。私はそうではありませんが。確かに、教会史を通して置換神学は反ユダヤ主義の基となりうる、あるいは、なってきたかもしれませんが、そこには必ずしもこの二つの主義が密接な関係にある必要は無いという理由も多数挙げることができます。しかし、いま、このレポートはより広い議題である反ユダヤ主義についてのレポートではありません。

また私は、非置換神学者が旧新約聖書を結びつける、時には強力に結びつけるその仕方に関心があるということをお伝えしたいと思います。それは、新約における旧約の用い方、主張、例えば「旧約は新約を隠し、新約は旧約を現す」というような表明であって、じつに魅力的ではあるのです。しかし、このことは、旧新約の間に預言の成就を見出すというより、新約聖書は明らかに旧約聖書より優れているという考え方に行き着く可能性を秘めているのです。パウロが旧約聖書について記述しています。

すべての聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。・・・(第二テモテ 3 : 16)

私は、これを読んでいる方々に、この問題に対して注意深く考えて、これがユダヤ人福音宣教に、また弟子としてのあり方へのアプローチに大きなインパクトを与えるか考えていただきたいと思います。

## ユダヤ人福音宣教に置ける置換神学の強い影響

- ・置換神学はユダヤ人のアイデンティティーを破棄する
- ・置換神学はユダヤ人からシオンの希望を奪う
- ・置換神学は旧約聖書を文字通り解釈することを否定する。イエスの再臨の詳細が文字通りに捉えられないのなら、初臨が預言の成就だと言えるのか。
- ・例えば、来るべきエルサレムが真実の都でないなら、ベツレヘムが真のベツレヘムであると確信することが出来ようか。
- ・置換神学が政治と結びつけば、イスラエルやユダヤ人に対して否定的な姿勢を作り出す可能性がある。
- ・置換神学は、ユダヤ人が救われる必要があるということ以外、彼らに福音をもたらすことに、もはや神学的起動力はないとして、ユダヤ人伝道の動機を失わせる
- ・置換神学は、意図的か否かによらず、イスラエルのための福音へのサポートを縮小する

この最後の指摘は、私たちの若者のなかで、イスラエルへのサポートが減少している理由のすべてではないかもしれませんが、このことに対する感覚的な認識は、教会を調査するに十分でした。そして、さらにミッションの私たち、会衆、福音的神学校を動かして、福音的教会において置換神学に対して徐々に進んでくると見えるものを、ゆっくりか、あるいは方向を切り替えるという新たな考えに対しての調査を始めるには十分な理由でした。(調査のタイトルは、「イスラエルに、そして平和的プロセスに対しての福音的姿勢」というもので、その調査の全結果は次のサイトで見る事が出来ます。  
[lifewayresearch.com/2017/12/4support-of-Israel-among-youger-evangelicals](http://lifewayresearch.com/2017/12/4support-of-Israel-among-youger-evangelicals))

## 現代メシアニックジュー活動への直接的脅威

置換神学は、現代メシアニックジュー活動、ユダヤ人福音伝道に対して直接的脅威を与えています。このことは、次に記した多くの異なる眺望からの考察からも伺われます。

## ユダヤ人のアイデンティティーと福音伝道

先ず、ユダヤ人に、イエスについて語ることはより困難です。というのも、ユダヤ人が持っている主な反論の理由は、ユダヤ人がイエスを信じるならば、もはやユダヤ人ではないということです。言い換えれば、ユダヤ人主流の共同体から見れば、ユダヤ人にとってイエスを信じるということは、民族的自殺と同等であるということです。この考えは何世紀もかけて形作られてきました。そのため、数世紀の間、イエスを信じるユダヤ人は、教会から、もうユダヤ人的慣習、ユダヤの祭りを行うこと、ユダヤ人共同体に残ってはならないと強く言われてきました。

この仮説の根拠については、多くの優れた書籍に詳しく記録されています。その中には、Dr. Michael Vlach の「教会はイスラエルに取って変わったのか?(*Has the Church Replaced Israel?*)」、Dr. Michael Brown の「我々の手は血に染まっている(*Our Hands Are Stained with Blood*)」があります。それほどユダヤ人に対するクリスチャン共同体の態度は歴史的置換神学によって形作られているのです。

ユダヤ人共同体は、イエスを信じるメシアニックジューのアイデンティティーを消し去るのに教会と強く連座していました。メシアニックジューは、ユダヤ人共同体から、ずっと隅に追いやられ、ぞんざいに取り扱われ、拒絶されてきました。

イエスを信じたユダヤ人は、何世紀にもわたって家族を去り、コミュニティーから去るよ

う「強制」されてきたと気がついていました。事実、置換神学と主流ユダヤ教は、メシアニックジューのユダヤ人のアイデンティティーと帰属を軽んじることについては協力者でありました。これは不幸なことです。

近代ユダヤ人宣教、現代のメシアニックジュー運動は、イエスを信じるユダヤ人に、彼らのコミュニティーや伝統への係わり合いを保ち、新旧聖書の真理に矛盾することの無いユダヤ人の慣わしに参加するよう勧めています。イエスを信じるユダヤ人は、一般的にメシアニックジューと呼ばれ、社会的にユダヤ人コミュニティーに留まり、真実と証しとして同胞ユダヤ人から距離を置くことのないように勧めています。もし私たちが、神はユダヤ人やイスラエルの地にもはや計画を持ってはおられないと主張する歴史的、発展的置換神学を肯定するなら、ユダヤ人を招き、彼らのメシアとして受け入れることを勧めることなどできるでしょうか。置換神学は、嘆かわしいことに、ユダヤ人信仰者に自分のアイデンティティーを捨て去るよう教会の入り口の前で無理強いしています。この置換ということは、ユダヤ人にとって、イエスに従うということは、ユダヤ人コミュニティー生活から自主的に出て行かせることになり、ユダヤ人宣教をほとんど不可能にさせるものです。

### シオンの希望への聖書的根拠を取り去る

置換神学は、教会の、私たちの批評の、いかなる現行の神学的状況、あるいはユダヤ人やイスラエルの地に対する「契約によって正しい」ことを否定する福音的パレスチナ人などの神学的基礎を築いてきました。事実、置換神学は、数千年にもわたりユダヤ人が大切に守ってきたシオンの希望に対する聖書的根拠を取り去っています。このユダヤ人の民族的贖いへの希望はアブラハム契約に基づいており、ヘブル語聖書の数百もの節に明確に記されており、新約聖書にさえ肯定されています。特に使徒パウロによるローマ書11章はユダヤ人アイデンティティーにとって欠かせないものです。民族的贖いの希望は、ユダヤ人の生活の基礎構造から取られてはならないし、シオンの希望はユダヤ人存在の**テリオス??**の核心としての神学から取り去られてもいけないのです。

置換神学は、キリスト教にもう一度ユダヤ人を敵として位置づけるものです。神学的にユダヤ人の民族的未来を抹消し、彼らが神に拒絶され、彼らに与えられたと信じている契約が、何世紀もの間、制度に則って彼らを迫害してきた教会によって成就したという教義の信仰をユダヤ人は受け入れることなどあるのでしょうか？

### ユダヤ人宣教の敵

置換神学は、個人として、民族としてのユダヤ人の個性とアイデンティティーの基礎を破壊するものとしてずっと、そして常にユダヤ人宣教の敵でありました。

また、置換神学は、福音的パレスチナ人クリスチャンとイスラエルのメシアニックジューとのあいだの真の和解に対して敵対するものです。例えば、夫婦の争いにおいて、互いの平和のために夫、あるいは妻にそれぞれの性別を放棄するように迫るようなことを想像してみてください。また、パレスチナ人クリスチャンに、イスラエルのメシアニックジューと平和的關係を築くために、彼らのパレスチナの遺産や政治を否定するように要求するのは有り得ないことです。

これこそが、私たちがイスラエルの内外のメシアニックジューに、キリストのみからだの内にあって平和と一致のために行うように要求していることなのです。しかし、メシアニックジューに、彼ら自身の神学的存在を明確にすることを要求することは、非現実的なことです。単に国際連合の決定だけで、聖書的権限なしに、ユダヤ人の国に住む権利を認めることは人を馬鹿にしたことで、ユダヤ人やイエスを信じるユダヤ人信仰者は、これはユダヤ人に

とって破壊的であった歴史的キリスト教の勝利主義のもう一つの例だと考えることでしよう。

イスラエルの国と地は、大方のユダヤ人にとって大変重要なもので、それはメシアニックジューにとっても同じことです。あるクリスチャンは、イエシュアへの信仰は、イスラエルをサポートする重要性において、何か民族的ユダヤ人アイデンティティー軽減するのではないかと思うかもしれません。文字通りシオンへの愛は、メシアニックジューにとって、他のユダヤ人と同じく、彼らのアイデンティティーの一部となっています。そして、みことば(聖書)の権威への信仰のゆえに、シオニズムは、同時代のユダヤ人コミュニティの歴史と政治に根づいたシオニスト信仰者より、聖書的忠誠に関しては遥かに大きいのです。